

情報公開文書

研究の名称	ERCP胆管挿管困難例に対するEUS-rendezvous法の有用性の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院第三内科教授・安田一郎
研究の概要	<p>【研究対象者】 2019年7月1日から2025年3月31日の間に内視鏡的逆行性胆道膵管造影を施行した症例のうち、胆管挿管困難例に対し超音波内視鏡ガイド下ランデブー法を施行した症例です。</p> <p>【研究の目的・意義】 従来、ERCP時の胆管挿管困難例に対するサルベージテクニックとして膵管ガイドワイヤー法(P-GW法)やプレカット法が広く用いられて来ました。しかし、それでも胆管挿管困難である症例や様々な要因によりこうした方法が困難な症例に遭遇します。このような場合、以前は内視鏡的アプローチ困難と考え、経皮的治療や外科的加療が行われることが頻繁にありました。</p> <p>近年、コンベックス型超音波内視鏡スコープを用いたInterventional EUSが普及するのに伴い、EUS下 rendezvous 法(EUS-RV)の有用性が報告されつつあります。</p> <p>当院では、胆管挿管困難例の次善の策としてEUS-RVを積極的に行っており、当院で行ってきたEUS-RVの穿刺方法、穿刺部位を詳細に分析することで、EUS-RVの有用性を評価するとともに、より侵襲が低く、有効性の高い方法を検討することができると考えられます。</p> <p>【研究の方法】 後ろ向き観察研究</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2025年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、主な公表論文は英文誌に投稿します。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	手技成功率及び、年齢、性別、原疾患、使用内視鏡、使用デバイス、穿刺部位、最終胆管挿管成功率、治療内容、手技関連偶発症発生率、治療後経過、その他のサルベージ法との使い分けなど(他機関への提供：無し)
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一郎
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する

	資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一郎
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7301</p> <p>FAX 076-434-5027</p> <p>E-mail jun21029@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 富山大学附属病院 第三内科 医員 松野 潤</p>